

道徳

ジャーナル

- 21世紀 心の時代に
防災教育に向き合う
大木聖子…………… 1
- 道徳授業 私の実践
・仲間外しにされる思いを深く考え、いじめにつ
ながることを発見し、自らの行動を考える授業
山田明莉…………… 4
・自己肯定感・自己有用感を高める道徳科授業の実践
道上幸祐…………… 6
- 浅見先生に相談です！
多面的・多角的って何ですか？
浅見哲也…………… 8
- どうなるこれからの道徳授業……………10

21世紀
心の時代に

防災教育に

向き合う

はじめに

皆さんは、防災教育にどのように向き合っているでしょうか。防災学習の時間を特別に設けていない学校であっても、法律に基づいて防災訓練は行われています。また、訓練の時間も教育課程に位置づけられているので、子どもたちが何らかの資質・能力を身につけられるよう、発達段階に応じたカリキュラム・マネジメントが行われていることと思えます。ではそれが子どもたちの主体的・対話的で深い学びとなるように、どのような教材で、どのように伝えるのがよいか、検討されているでしょうか。

「防災小説」の取り組み

私の研究室は二〇一六年に、高知県土佐清水市立



慶應義塾大学環境情報学部 准教授

おおきさとこ
大木聖子

清水中学校と共に「防災小説」という教材を開発しました。開発したというより、日本で最も高い津波高が想定された地域の中学校教員と一緒に防災教育について悩む中で、自然に誕生した教材です。

「防災小説」とは、まだ起きていない災害について、あたかももう起きたかのようにつづる、八百字程度の「私の災害体験記」です。主人公は自分、物語の最後は希望を持って結ぶというルールです。

防災日時やその日の天気は学校が決めます。ひと月くらい先の特定の日時を指定するので、自分がそのとき何をしているか、家族はどこにいるかなど具体的に決まります。家に一人でいる時間帯に大地震が起きて大津波警報も出ていると想定すると、急に不安が現実的なものとなります。自分は一人で高台に避難するんだ、じゃあ家族はどうしているのか、みんなそれぞれ高台に行ってほしい、そんな思いが次々と浮かんでいきます。

今では全国のいくつもの中学校がこの「防災小説」に取り組んでいます。地域によって何がリスクとなるかが異なり、発災の季節や時間帯によって、いくつものパターンが想定できます。

例えば沿岸部に暮らすある中学生は、津波から辛くも逃げ切り、高台の避難所にとどり着くものの家族の姿が見当たらず、その不安を打ち消すように高齢者の支援などの手伝いをしながら数日過ごします。そして、ある日の夕方、聞き慣れた声が聞こえて振り返ると、別の高台に避難していた家族が来ていて再会を果たす、といった物語をつづっています。



「防災小説」の朗読風景（愛媛県愛南町立御荘中学校）

また、都市部に暮らすある中学生は、地下鉄で一斉に鳴り響く緊急地震速報の不気味さと強烈な揺れの恐ろしさで震えて足がすくむ自分に、「何のため

の防災学習だったんだ。今こそ私は動くべきだ」と言い聞かせて奮い立ち、友人や先生たちと協力しながら、けが人や避難してきた人への対応を行い、その地域の犠牲者ゼロを実現する、という物語をつづっています。「防災小説」を執筆した中学生の数だけ、災害の多様性や、協力して生き抜く姿が描かれ、希望が誕生します。

災害に向き合う力

「防災小説」は実にリアルです。津波から逃れるために神社の長い石段を必死に駆け上がる緊張感、街を襲う津波が立てるバリバリという音、薄暗い避難所で家族が見当たらずに希望を失いかける様子など、詳細に描写されるこれらの情景は、まるで本当に経験してきたことを、言葉を尽くしてつづったかのようです。このことは、地震や津波、それらもたらす災害について、あるいは避難所での生活について、中学生が自分の言葉で描写できるほどしっかりと学習を積み重ねているということを意味しています。

一方で、「防災小説」の中で描かれているのは、災害の凄まじさだけではありません。物語の中で中学生は、学校での防災訓練や避難所運営訓練を思い出して、自分が奮い立つ様子を描写しています。他にも、居合わせた友人とのたわいなおしゃべりで互いに励まされる様子や、先生のように頼れる大人

になりたいという憧憬のまなざし、合唱コンクールなどの思い出が登場し、被災後の彼らが再び立ち上がり、希望を持って前に進む力につながっています。中学生の描く「防災小説」に触れるたびに私は、彼らが防災学習を通して身につけたのは「災害に向き合う力」なのではないかと感じます。発災直後の行動のあり方や災害のメカニズムに関する知識の習得はもちろんですが、結果的にはそれ以上に、防災学習が、仲間と協力して困難な状況に立ち向かう姿勢を獲得していく機会、何事も起こらないこの日常の有り難さを知る機会として機能しているように感じます。困難に向き合うことは、つらく苦しい作業です。自分には関係ないと思って目を背けて暮らしているほうが、どれほど楽でしょう。では中学生はどのようにして、災害に向き合う力を身につけたのでしょうか。

探究型避難訓練

その一例として、「防災小説」に取り組んでいる学校をはじめ、より実効的な避難訓練を行っている小中学校の事例を紹介しましょう。訓練の想定として、余震・停電・けが人発生を加味しているのが特徴です。

まず、現実の世界では、余震を伴わない大地震は存在しません。科学的には必ず余震が起こります。本番で絶対に起きる余震を、訓練であえてゼロにす

る理由はありません。訓練の時間に緊急地震速報の報知音を複数回鳴らすことで、度重なる余震を表現し、子どもたちはその度に机の下に入ります。津波浸水域にない学校であれば、無理に外に避難せず、耐震性のある校舎内で様子を見て、一人一つずつ机がある状況下で身の安全を守るなどして過ごします。なお、阪神・淡路大震災をきっかけに進められてきた学校校舎の耐震化は、一部自治体を除いてほぼ完了しました。阪神・淡路大震災以降、我が国で学校校舎が地震で倒壊した事例は一つもありません。

さらに訓練では、けが人役も配置します。クラスの数だが、本震や余震でけがをしたり体調不良になったりした演技をし、この情報を教員に伝えたり、友人同士で声かけを行ったりします。停電を想定している中、情報を受けた教員は学年やフロアで情報集約を行い、管理職のいる本部に伝達します。このようなり取りを教員が廊下を通じて行っているの、情報伝達の邪魔にならないようにと、子どもたちは静かにしています。あるいは発達段階に応じて、「けが人報告カード」を記入したり、学級にいる人数を数えたりと、教員の指示を待たずに自分ができることを自分で考えて行っています。重症者は教員が対応しますが、軽症者については子どもたち同士で声かけを継続します。どのような声かけが安心するのか、自分だったらこの状況でなんと行ってほしいか、それぞれがその場で考えて対処します。多くの学校で先生方からよく聞かれるフレーズは

「笑っている人がいます！ 真剣に！」という指導ですが、「探究型避難訓練」を行っている学校では「けがをしている人はいませんか？ 周りのお友達はどうですか？」というように、教員の言葉が自然に変化しています。後者のような声かけをされながら訓練を受けてきた子どもたちは、先生の言葉の引き出しからさまざまなフレーズを学び、友人にも適切な声かけができるようになるのです。



「探究型避難訓練」の様子（東京都中央区立晴海中学校）

必ずしも正解が一つに決まらない状況下で、教職員も子どもたちも全員が協力して最善を尽くす、このような訓練を「探究型避難訓練」と呼んでいます。探究なので、うまくいくことが訓練の目的ではありません。自分たちで課題を見つけ、試行錯誤しながら、よりよい方法を探る姿勢を持つことがねらいです。本番がやってくる前に、前向きな失敗をみんな

で重ねていく。このような訓練が防災学習の一環としてなされています。

自他の生命の尊さを知る

「防災小説」の中で子どもたちは、決してたやすく生き抜いてはいません。「防災小説」が示しているのは、彼らが防災教育を通して「生命の儚さ」を知った、ということです。生命というのはいつだって簡単に奪われてしまうかもしれないものであると、中学生は感じ取っています。そして、それでも命を守ろうとしてくれる先生や友人がいること、自分もまた誰かのために力を尽くすということを、「探究型避難訓練」における行動と「防災小説」の中の言葉とで確認しています。自分が大切な存在であると、当たり前前に受け入れられる空間で生きていることを実感する機会が、防災教育の時間だと言えるのではないのでしょうか。

このような体験は、平時の学級でも生きてくるはずですが。訓練で便宜上行う声かけが、やがて普段から自然と声かけができる、声かけの多い学級を築いていくでしょう。皆さんの学校でもぜひ子どもたちと共に防災教育に向き合ってください。共に過ごしたその時間は、子どもたちがこの先の人生で困難に出くわしたとき、前を向いて立ち上がるための大きな糧となるでしょう。

（おおき さとこ）

道徳授業私の実践

仲間外しにされる思いを深く考え、
いじめにつながることを発見し、
自らの行動を考える授業

目指す授業像と手立て

本稿の二年生教材「およげないりすさん」の実践は、新潟市教育委員会が推進している「いじめ未然防止に向けた教育プログラム」の指導構想を自分なりにアレンジしたものです。

私が道徳科の授業で重視しているのは、授業者が正しい考えに導くのではなく、子ども自身が教材の問題場面における今の自分の考え方や行動の仕方を自覚し、それがよいかどうかという問題意識を持ち、友達から出されたさ

まざまな考えを基に、自らの意思で見つめ直し、新たな考えをつくり出すということです。

そのような授業を実現するために、本実践では二つの手立てを用意しました。教材の四分劃提示と三色のハートカードの活用です。

本教材では、りすを仲間外しにした動物たちは、島に着いて遊んでも「りすさんのことが気になり、ちつとも楽しくない」という設定になっていますが、当学級の子どもたちは、楽しい場面になると、つらい思いをしている友達のことを頭から抜けてしまう傾向が

あります。

その現状を認識させるため、一分劃目は、りすが仲間に入れてもらえなかった場面としました。続いて二分劃目は、動物たちが島に着いて遊んでいる場面（「ちつとも楽しくない」の前までとしました。二分劃目で遊んでいる動物たちの気持ちを考えさせるところが、本実践の核となります。そこで、一分劃目と二分劃目での自分の考えを認識しやすくするために、三色のハートカードを活用しました。

以下の表は授業の流れをまとめたものです。



新潟県新潟市立
新津第三小学校教諭
山田明莉

本実践の授業構想

教材の分割	主な働きかけ
1 りすを置いて島に出発するところまで	○りすさんはどんな気持ちかな。 【色カード選択①】
2 動物たちが島に着いて、遊具で遊ぶところまで	○島で遊ぶ動物たちはどんな気持ちかな。 【色カード選択②】 ○黄色、水色の方はどんな考えなのかな。 【色カード選択②の再検討】
3 かめが「いい考えがある」と言うところまで	○いい考えとはどんな考えなのかな。
4 最後まで	○動物たちの行動をどう思うかな。



実践を通して

一分割目では、島へ行きたいりす以外の動物たちの気持ちと、泳げないりすを置いて行くことは仲間外しであることを確認しました。その後、仲間に入れてもらえなかったりすの気持ちを問うと「自分も行きたかった」「悲しい」と水色のハートを選択していました。【画像A】



(A) りすの気持ちを考えた結果

続く二分割目では、島で遊んでいる動物たちの気持ちを問いました。すると、学級の三分の二の児童はピンク色のカードを選び【画像B】、そこには、「とても楽しい」といった言葉が書かれています。ピンク色を選んだ児童はりすのことに思いが向いていないことがわかります。【画像C】



(B) 島に行った動物たちの気持ちを考える児童

児童の姿であり、半数以上の児童は、仲間外しにされている相手の思いをなかなか考えることができないということが推測されました。本実践では、そのような児童が、りすのことを考えていない自分に気がつき、相手の思いに自分の心を向けることが大切であると理解することを目指しました。このことが、本実践のテーマ「仲間外しにされる思いを深く考える」ことであると捉えました。



(C) 考えた内容を記したハートカードを黒板に貼る児童とその結果

画像Cにあるように、黄色や水色のカードを選んだ児童も数名いました。その児童たちは「りすさん、どうしているかな。」「一緒に連れてくればよかったかな。」と、仲間に入れなかったりすを思う気持ちを持っていました。そこで「先生もピンクの考えはよく分かるな。でもなぜ黄色や水色の考えになるのかな。」と問いかけ、黄色と水



(D) なぜその色のハートカードを選んだのか話し合う児童

色を選んだ児童の考えを全体に伝えました。その話を聞いて、ピンク色を選んだ児童たちが、はっとした表情を見せることが何度もありました。その様子から友達の話聞いて何か感じたことがあるかを問うと、「りすさんのことも考えないと……。」「それ大事!」との声が上がりました。その声を基に、本実践の核である問いかけ・指示を行いました。



(E) 話し合いの後に考えが変わったことでハートカードを貼り替える児童

「考えが変わった人はいますか。」「考えが変わった人は、ハートカードを貼りましょう。」という問いかけ・指示により、最初にピンク色を選んだ児童がぞろぞろと出てきて、黒板にこれまでと異なる色のカードを貼ってきました。【画像E】

教材の分割提示と三色のハートカードの活用により、ピンク色を選択した多くの児童が、本来の自分の考えに気付くことができました。また、友達の考えを聞き、自分の考えを見つめ直すことができたことを成果として捉えています。今後も、子どもたちが自らの意思で考えを見つめ直し、新たな考えをつくり出す道徳科の授業に挑戦していきたいです。(やまだ あかり)

おわりに



(F) Eの活動(貼り替え)の結果

道徳授業 私の実践

自己肯定感・自己有用感を 高める道徳科授業の実践

はじめに

私が担当する学級は、一部の生徒に役割が偏り、自信を持って一歩引いてしまふ生徒がいる。そこで生徒が得意なことを生かし、「自分も集団の中で役に立てる」「自分の行動が誰かを支えている」と感じ、自己の生き方へとつなげてほしいという理解がある。

そこで、生徒が道徳的価値を実感することや互いの思いや考えのよさを認め合い、意見を尊重するなど、磨き、高め合える関係づくりを目指すことに

した。まず、導入で仲間のよさを認め合えるようにし、教材を通して自分を見つめる。展開ではICT活用で、仲間の道徳的価値に関する見方や考え方に触れる。そして価値について考えを深める多様な意見交流と自分の生き方につなげる発問の工夫や吟味をする。どの教材の授業でも同じ過程を繰り返すことで、日常生活の中で道徳的実践意欲を育みたいと考えた。

授業の構想

導入では、仲間の道徳的実践意欲の



岐阜県下呂市立
小坂中学校教諭

道上幸祐

よさに気付き(いいね①・②)、登場人物の見方や考え方のよさを深め、終末で、自分の中に芽生えたよさを今後の生活の中で発揮していこうと、意欲的になるように授業を計画した。

1 導入の工夫

「いいね」に二つの項目を設け、生徒が互いを認め合い、自分も仲間も自己肯定感や自己有用感を高められるよう工夫した。道徳的価値に迫る生徒の姿を教師が紹介し、全体でそのよさを共有することを「いいね①」とした。パドレットを活用し、仲間の考えのよさに対して、「いいね」ボタンを押し

たり、「コメントを書き込んだりすること」を「いいね②」とした。

2 発問の吟味と思考タイムの設定
生徒の実態と「いいね②」で挙げた本時に考えたいことを踏まえ、発問につなげるように意識した。発問は「中心発問」と「深めの発問」の大きく二つに絞り込むようにした。(補助発問は別にある)

また、道徳的価値につながる視点を提示し、その見方や考え方を基に、自分や仲間とじっくり考え、思考を整理する時間を「思考タイム」とした。

3 終末の工夫

本時で学んだ道徳的価値を自分の生き方とつなげ、自分で考えて歩み出していけるように「明日の自分」という終末の場面を設定した。

授業の実践

- **主題名** 誰が集団をつくるのか
- **内容項目** よりよい学校生活、集団生活の充実
- **教材名** 「青のオーケストラ」(『新版中学生の道徳明日への扉2』学研)
- **あらすじ** 高校一年生の立花静は、

オーケストラ部の仲間の練習態度にいらだちを覚える一方、中学校時代部長を務めた際の苦い経験を思い出す。

○ねらい みんなが納得できる形で金賞を目指すために、自分の役割や責任について自覚し、それを果たす大切さに気付き、自分の役割にふさわしい具体的な関わり方や行動を見いだし、実践していこうとする意欲を養う。

【導入】

○いいね①

学級で自分の役割を果たしていた生徒を、授業者から紹介した。

T Aさんは、職場体験での字びや得意なことを生かし、全校生徒にタブレットの使い方を説明した。その経験から自分の役割を自覚し、運動会練習では率先して声を出す姿が見られた。自ら行動し責任を果たそうとする姿勢は場を明るくし、周囲への配慮も感じる。

○範読

生徒は主人公が困っていることや悩んでいるところなどに線を引く。

【展開】

○いいね②

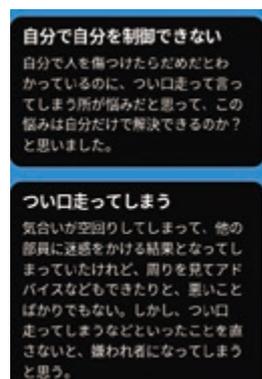
パドレットを使用し、線を引いたところを基に考えたいことを入力する。

T 音楽部の目標は？

C 金賞を取ることに。

T 立花さんは部長として一年生の指導をしたり、練習の工夫をしたりしていた。けれど、独りよがりだった。独りよがりってなに？

C 自分勝手。



パドレットに記入した感想

○思考タイム

発問① 「独りよがりだった」と言っている立花さんはどのようなことに気付いたのだろうか。

C 一人だけでやっている。

C 周りとの温度差がある。

C 周りに無理をさせていた。

T 立花さんは変わろうとしているから金賞取れるかな。(深めの質問)

C いや、まだ……。他の部員も頑張らないと金賞はまだ取れない。

発問② (中心発問) 一人一人が納得できる金賞を取るにはどんなことが必要なのだろう。

C みんなで決めることが大切。

C みんなが本音を言えるように。

T 集団は誰がつくっていくの？

C 一人一人がつくっていく。

【終末】

○明日の自分

T 今日学んだことを基に、みんなはどの立場で、どんなことを取り入れていけそうかな。

C テニス部の部長として自分が空回りしないよう、みんなの気持ちと同じ方向に向くように声をかけたい。

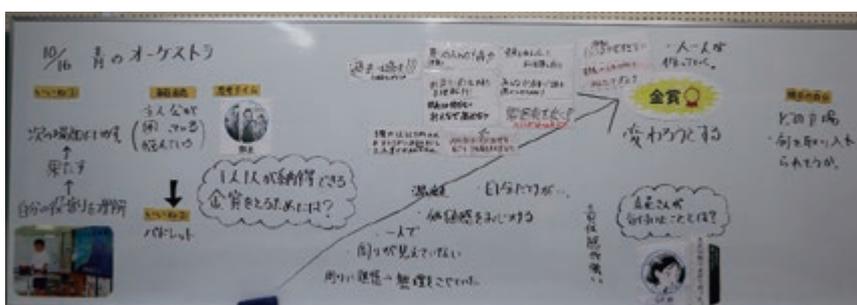
C 自ら声を出し、練習と試合でキャプテンの負担を減らしたい。

おわりに

本実践から、生徒たちは「集団の中の自分の存在」に目を向け「自分にもできることがある」という前向きな考えを少しずつ持ち始めた。自己や仲間よきさに目を向け、立ち止まること、自己肯定感・自己有用感の育成につながる大きな一歩になった。

一方で、授業者としては「価値に迫る深めの発問の吟味」「子どもの気付きの受け止め方」に関して課題も残った。

た。しかし、私自身迷いながら生徒と考える中で「教師が完璧な答えを示すのではなく、共に悩み気付いていくところこそ道徳の授業の本質」と感じた。今後も生徒一人一人が自分のよさを発揮し、仲間の中で生き生きと輝けるような道徳授業を追究していきたい。



(みちつえ こうすけ)

浅見先生に 相談です!

第6回



十文字学園女子大学教授

多面的・多角的って何ですか？

いろいろな意見がたくさん出たら、多面的・多角的と言えるのでしょうか。

浅見哲也



マンガ・春原弥生



多面的・多角的に考えるとは

道徳科の目標には、道徳性を養うための学習として「多面的・多角的に考える」という言葉があります。「多面的」とは学習対象がさまざまな面を持っていることを意味し、「多角的」とはその学習対象をさまざまな角度から考察してしっかりと理解することを意味しています。しかし、このように意味を正確に区別して使い分けることを目的としているではありません。

道徳科の評価では子どもたちの学習状況を見取って認め励ます評価をしますが、特に重視している学習状況の一つが「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか」であると「小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」の中で示されています。なぜ、こうした学習が重視されているのかを考えてみたことがあるでしょうか。それは、多面的・多角的に見られる目や心があれば、広い視野を持って物事を冷静に判断し、よりよい生き方ができるようになるからです。ですから、道徳科では、子どもたちが多面的・多角的に考えられるようにすることを意識して指導することが大切なのです。

特定の内容項目に関わる見方や考え方

では、道徳科の授業における多面的・多角的な見

方や考え方とはどのようなものかをもう少し具体的に考えてみたいと思います。道徳科では、ねらいとする道徳的価値の理解を基に授業が行われる。ことから、ねらいとする道徳的価値のさまざまな面を捉え、深く理解することが考えられます。

分かりやすい例で言うと「生命の尊さ」なら、偶然性、有限性、連続性という面で捉えることができます。偶然性から自分が今ここにいることの不思議さを感じると、自分の可能性を信じたり、共存したりする意識が高まってきたり、有限性から生命にはいつか終わりがあることを自覚すると、今を一生懸命に生きたり、自分の生き方を見つめたりする意識が高まります。連続性から生命はずっとつながっていることや関わっていることに気が付くと、家族のために生きることや祖先に感謝して生きるという意識が高まります。こうして多面的・多角的に考えることを通して、より一層生命の大切さを理解し、自己の生き方として生かしていくことができるようになっていきます。

もう一つ例を挙げると「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」についてです。郷土を愛する態度の根拠となるものは人それぞれです。伝統と文化の継承からくる責任感であったり、郷土の自然を愛し、守っていかうとする自然愛護や公共の精神であったりします。また、自分を育ててくれた地域の人への感謝や思いやりが郷土を愛する心のバックボーンとなっている子どももいます。こうしたさまざま

なものが郷土を愛する心につながっていることに気付くと、さらに郷土愛は高まってくると思われれます。

意図を持った多面的・多角的な見方や考え方

このように手がかりとする内容項目によって指導に必要な多面的・多角的な見方や考え方があります。子どもたちの課題も踏まえることが必要です。いじめを題材とした教材で「公正、公平、社会正義」や「相互理解、寛容」等の授業であれば被害者、加害者、傍観者など、さまざまな登場人物の立場で考えることが必要かと思えます。また、教材の登場人物がしてはいけないことをしてしまつて隠そうとするような内容でしたら、時間の経過とともに変化していく気持ちを考えたいところです。つまり、してはいけないことをしてしまつたときの隠そうとする気持ちや、正直に打ち明けようか打ち明けまいか迷っているときの気持ちに自我関与して考えるのはもちろんですが、そのままにしておいたらその気持ちはどのように変わっていくのかを考えるとということ。「よりよく生きる喜び」でしたら、人間の強さや弱さを捉えて考えることが不可欠です。道徳的行為を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方や考え方は一つではなく多様にあります。そもそも道徳科では「価値理解」ばかりでなく「人間理解」や「他者理解」を深めながら道徳的価値を理解していきますので、こうしたそれぞれの理解をし

ていくことも多面的・多角的に考える大切な学習だと捉えてよいのです。

多面的・多角的に考えるための指導の工夫

このように子どもたちが多面的・多角的に考えられるようにするためには、指導方法を工夫する必要があります。視点を変えたり広げたりするきっかけとなるのは、やはり教師の発問です。登場人物はどんな気持ちでいるのでしょうか、という発問からスタートし、多面的・多角的に考えられるようにするために、切り返したり、問い返したりするような補助的な発問をしていきます。

どのような多面的・多角的な見方や考え方ができるようにしたいのか、その意図を教師がしっかりと持っていることが必要です。

また、学級の子どもの数が少ない場合、どのように多面的・多角的に考えればよいかという質問もよく受けませんが、例えば、一人の子どもがさまざまな視点に立つて考えられるような工夫があります。ある授業のワークシートには、吹き出しが複数設けられていました。一人の子どもが一つの気持ちや考えを表現して終わるのではなく、視点を変えて複数の気持ちを表現できるように工夫されていたのです。

このように教師が意図を持って指導にあたることで、子どもたちも多面的・多角的に考えられるようになるのです。(あさみ てつや)

どうなるこれからの道徳授業

道徳教育推進教師編 その4

とくちゃん



監修・廣瀬仁郎 法政大学兼任講師
マンガ・のはらあこ



学先生



それなら、
模擬授業を
してみたら？

とくちゃん！
何しているの？



道徳の校内研修を計画したいけど、
一方的な研修じゃ先生たちも
意欲的になれないよなあ。

ん？ いい
においがする。



何って、今度の学校の
バザーで出す
模擬店の準備だよ。

学先生も
手伝って！

クッキー
作るよ！

模擬授業を取り入れる
ことで、先生たちが
主体的に研修に参加して、
授業力アップに
つなげられるよ。



普段の授業と
同じように
準備すれば
いいのかな？



!! 道徳教育推進教師のおき並び拜見だ!!

ほかの先生に授業を
見せるのって、
緊張するんだよなあ……。

模擬授業ではすごい授業を
見せる必要はないんだよ。

学び合ってよりよい授業を
つくるといふ気持ちで
やってみようよ。

ねらいの設定や教材分析は
模擬授業でも大切。
簡単な指導案も
つくっておこう。

教材は事前にお知らせしておく、
当日スムーズに進められるよ。

先生たちに
配ってきて！



実際の授業より
短い時間で模擬授業を
行う場合は、強調したい
ところに焦点を当てて
組み立てるといいよ。



とくちゃん・クッキー屋さん
週末の〇×小バザーに出店します！



店長
とくちゃん

アシスタントの学先生が、
□月×日に「手品師」で
模擬授業をします。

ほとんど自分の
宣伝だよな？

参加者には、設定した
学年の子どもに
なりきってもらおう。

そのほうが実際の授業の
イメージがわきそうだね。



模擬授業後は、指導案を配布して、
内容や授業者の意図を説明しよう。

その後、全員で授業に
ついて協議するよ。

授業評価のポイント

- ・一面的な見方から
多面的・多角的な見方へと
発展していたか。
- ・道徳的価値の理解を
自分自身との関わりの中で
深めていたか。

こんな視点で
よい点や改善点を
考えてみよう。

これなら先生たちも
主体的に取り組んで、
授業改善に
役立ててくれそう！

やってみよう！



バザー当日

模擬授業の
宣伝は
ほどほどに
しておこう。



学先生
手伝って～!!

ずら～っ

すごい
行列!!

『どうなるこれからの道徳授業』が本になりました!!

マンガでわかる道徳

すぐできる ずっと役立つ **基礎・基本**

編著 廣瀬仁郎 (法政大学兼任講師)
浅見哲也 (十文字学園女子大学教授)
永田繁雄 (東京学芸大学教授)



A5判・144ページ 定価：1,980円 (本体1,800円+税10%)
品目コード：2380252900 ISBN：978-4-05-802529-1
ご注文は貴校担当のGakken 特約販売代理店へお願いいたします。全国の書店、ネット書店でもご購入いただけます。

商品ページはこちら!



道徳ジャーナル128号 令和8年2月発行
発行所 株式会社Gakken 発行人 竹重純二 編集人 木村昌弘
本誌のお問い合わせ先…小中教育事業部 〒141-8416 東京都品川区西五反田2-11-8
内容については…TEL (03) 6431-1565 (編集) それ以外のことは…TEL (03) 6431-1151 (販売)
「学研 学校教育ネット」 <https://gakkokyoiku.gakken.co.jp/> ●『道徳ジャーナル』のPDF版はWEBページから。



9300010772